

## 木の実の収穫がたのし〜い♪ おいし〜い♪♪

今年は園庭のびわの実が豊作で、子どもたちは木に登って取って食べたり、大人にとってもらって食べたりと、自然の味をしっかり味わってきました。 びわが終わると、今度はヤマモモの実がこれまたおいしく色づいてきて、早速取って食べている子どもたちでした。

自然の恵みが嬉しいですね。 パンダ組の子どもたちに「おいしいよ」と言って取ってあげると、「これはうまい！」と味をしめた子どもたち。早速自分たちの届く範囲のところの実や、落ちてきた実を手にいっぱい握りしめて一つひとつ嬉しそうに味わっていました。 小さな頃に味わったこういったうれしい味覚は一生続きますよね。

食べきれなかつたびわやヤマモモは給食室の方でジャムにしてもらいました。 こちらも大人気でいっぱい食べた子どもたちでした。 

どんぐりまつりお疲れ様でした。

先日はみなさん、どんぐりまつりお疲れ様でした。 生憎の天気でしたが、皆さんがあれぞれに雨対策などをしていただき無事に終えることができました。 子どもたちがそれぞれに“おまつり”を楽しんでいましたね。 保育園を卒園した子どもたち（といってももう大きいですが）もOBブースで活躍していた姿がとても頼もしかったです。

中心になってこの祭りを準備してくださった実行委員の皆様、本当にありがとうございました。

## 尊い命のバトン 誓い～私たちのおばあに寄せて



6月23日は、沖縄の「慰霊の日」でした。終戦前、本土決戦の捨て石とされた沖縄にアメリカ軍が進行し、島全体が焼かれ、全島民の4人に1人が犠牲になりました。このことを忘れないために、この日を「慰霊の日」として定め、激戦地だった糸満市の摩文仁の丘に記念碑「平和の礎（いしじ）」が建てられました。毎年ここで「沖縄全戦没者追悼式」が行われています。今年、この式典で朗読された「誓い～私たちのおばあに寄せて」という高校3年生の上原愛音（ねね）さんの詩がとても感動的でした。

「母の呼び声と、目玉焼きのいい香り。いつも通りの朝が来た。 七十二年前 恐ろしいあの影が忍び寄るその瞬間まで おばあもこうして朝を迎えるだろうか。おじいもこうして食卓についてだろうか」で始まる詩は、沖縄戦でガマの中で起こったむごい出来事や苦しみが想像できるものでした。 しかし、決して暗くはなく、沖縄のきれいな海の事や文化も浮かび上がってくるものであります。そして、「おばあ、大丈夫だよ。 今日、私たちも祈っている。 尊い命のバトンを受けて 今 祈っている。おじい、大丈夫だよ。この島にはまた 笑顔が咲き誇っている。

（略）誓おう。私達はこの澄んだ空を二度と黒く染めたりはしない。誓おう。私達はこの美しい大地を二度と切り裂きはしない。ここに誓おう。私は、私達は、この国は、この世界は、きっと愛しい人を守り抜くことができる。この地から私達は、平和な使者になることができる。」と続けています。

この間、この国の政治は様々な問題を起こし、さらに武力と戦争放棄を謳った憲法9条の改憲論まで持ち出されている中、未来を担う若者たちからのこうした力強い発言に爽やかな感動をもらいました。全文を紹介したいところですが、紙面の都合で掲載できないので中央掲示板に掲載したいと思っています。是非読んでください。

